

主要地方道坪野小矢部線県単独道路改良事業に係る
試掘調査概報

須蘇末峠 A 遺跡

2001年3月

砺波市教育委員会

目 次

序 文	1
I 遺跡の立地と歴史的環境	2
II 調査に至る経緯	3
III 調査の概要	4
1. 概 况	4
2. 基本層序	4
3. 遺 構	4
4. 遺 物	7
IV ま と め	7
〈引用・参考文献〉	8

例 言

- 1 本書は、富山県砺波市池原地内に所在する須蘇末峠A遺跡の埋蔵文化財調査概要である。
 - 2 調査は、富山県高岡土木事務所の依頼を受けて、砺波市教育委員会生涯学習課が実施した。
 - 3 調査期間・面積は次のとおりである。
調査期間 平成11年度 平成11年8月2日～平成11年8月10日
平成12年度 平成12年6月12日～平成12年6月21日
発掘面積 69m²
 - 4 調査体制は次のとおり
調査事務局 砧波市教育委員会 生涯学習課 課長 老松邦雄
学芸員 利波匡裕
 - 5 土色については新版標準土色帖1999年版(農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修)に拠った。
 - 6 科学年代測定については(株)中部日本鉱業研究所に委託した。
 - 7 本書で使用した方位は真北で、標高は海拔高である。
 - 8 出土品および記録資料などは砺波市教育委員会が保管している。
 - 9 調査および報告書について、次の方々より指導・協力をいただいた。記して謝意を表したい。(敬称略、五十音順)
尾田武雄、佐伯安一、高橋真実
 - 10 調査において次の方々よりご理解とご協力をいただいた。記して謝意を表したい。(敬称略、五十音順)
(社)砺波市シルバー人材センター、正権寺地区自治会、
 - 11 調査・整理参加者は次のとおり。
平成11年度 天野秋一・荒木久平・西村昌蔵・安カ川礼子・山本正枝(以上(社)砺波市シルバー人材センター)
平成12年度 高木美奈子(以上砺波市教育委員会)、西村昌蔵・信田正明・安カ川礼子(以上(社)砺波市シルバー人材センター)

序 文

富山県の西部に位置する砺波市は、庄川により形成された庄川扇状地と南北に細長く横たわる芹谷野段丘、そして牛岳北麓に広がる丘陵性の庄東山地の3つの変化に富んだ地形で形づくられています。

須蘇末（すそま）峠は、射水丘陵に連なる庄東山地の西際に位置します。北には増山城跡やその城下町の遺跡、西に厳照寺遺跡、東に正権寺遺跡、南には延喜式内社に比定されている池原荊波神社があり、峠自身も日本武尊伝承を持つ歴史環境豊かな地です。調査地点に立つと、南直下に和田川の支流坪野川が流れ、その上に大きく牛岳が存在感を表し、東方には遠く立山連邦を望むことができます。

今般、主要地方道坪野小矢部線改良工事の関連工事の施工に伴い、平成11・12年度において発掘調査を実施いたしました。

調査地点のすぐ北側まで民間による土砂採取のための掘削が行われ、調査地付近も伐採等のため大きく地形が変化しているところもあったため、調査は困難を極めましたが、調査の結果、集石遺構や炭化物が詰まったピットが確認されました。この概報は、その調査結果をまとめたものであり、本書が郷土の歴史の解明や学術研究の一助となれば幸いです。

平成13年3月

砺波市教育委員会
教育長 飯田敏雄

I 遺跡の立地と歴史的環境

須蘇末峠周辺は、北方から伸びる庄東山地の張り出し部にあたり、南側の急斜面下には和田川支流の坪野川が蛇行している。

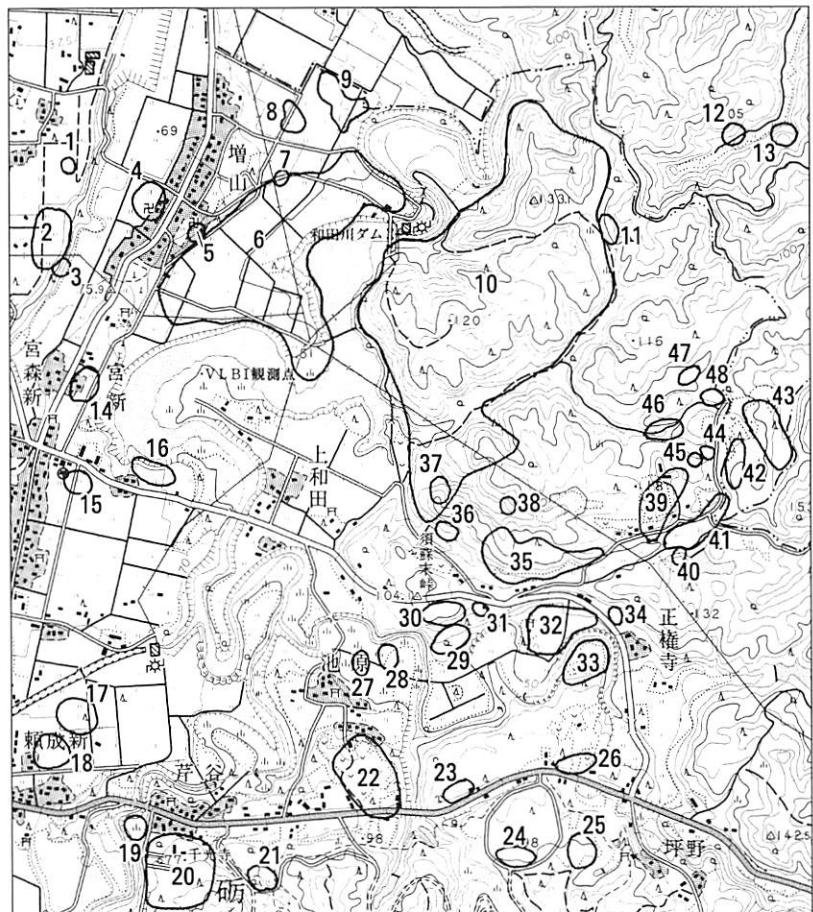
須蘇末峠一帯には、須蘇末峠遺跡、金クソ山遺跡、金クソ山西遺跡などの古代の製鉄跡があり、そのうち池原向島遺跡は平成3年に発掘調査が実施されその概要が明らかになっている〔関1990〕。また増山団子地窯跡、増山笠山窯跡、増山赤坂窯跡など増山一帯には古代の窯跡も多くあり、一群を形成している。東大寺庄園である伊加流伎、石栗、井山の各庄が芹谷野段丘に沿って庄川扇状地の東側に展開されていることは、製鉄跡や窯跡の成立背景を推測させるものである。須蘇末峠A遺跡の南方約400mには荊波神社があり、延喜式内社に比定する説がある〔砺波市史編纂委員会1990、1994〕。

正権寺遺跡では昭和52年の圃場整備の際、人頭大の石が配石されている遺構が確認された〔久々1988〕。あわせて銅製燭台や土師器、珠洲が出土していることなどから、中世末の配石墓としての可能性が考えられる。

北部丘陵一帯には越中三大山城の一つと数えられる増山城跡が位置している。安土桃山時代から江戸時代初頭まで継続した山城で、砺波地方へ睨みをきかす要所として機能していた。平成9年度から測量調査と発掘調査が実施されており、複数回にわたる造成や大規模な土木工事が実施されて

No.	遺跡名	種別	時代
1	行者塚	塚	中世
2	宮森庚寺	寺院	鎌倉・室町
3	宮森窯跡	窯	奈良
4	増山西遺跡	散布地	古代
5	増山妙覚寺坂窯跡	窯	奈良
6	増山遺跡	散布地・集落	縄・奈・平・中・近
7	増山龜田窯跡	窯	奈良
8	高沢島Ⅲ遺跡	散布地・集落	奈良・平安
9	高沢島Ⅰ・Ⅱ遺跡	散布地・集落	旧・縄・奈・平・近
10	増山城跡	山城	鎌倉・室町
11	増山雀坂山遺跡	製鉄	古代
12	西谷No.10遺跡	製鉄	古代
13	西谷No.11遺跡	製鉄	古代
14	宮新遺跡	散布地	奈良
15	宮森新天池遺跡	散布地	縄文
16	上和田遺跡	散布地	縄文
17	長尾能景塚	塚	中世
18	賴成新遺跡	散布地	縄文
19	芹谷下大門遺跡	散布地	中世・近世
20	千光寺境内遺跡	寺院	中世・近世
21	芹谷遺跡	散布地	旧・縄・古
22	池原遺跡	散布地・製鉄	旧・縄・古
23	賴成A遺跡	散布地	縄文
24	賴成B遺跡	散布地	旧石器
25	賴成C遺跡	散布地	縄文
26	賴成D遺跡	散布地	平安・中世
27	狐塚	塚	中世
28	狐塚遺跡	散布地	鎌倉
29	須蘇末峠遺跡	製鉄	古代
30	須蘇末峠A遺跡	散布地	旧・古・中
31	池原向島遺跡	製鉄	古代
32	正権寺遺跡	散布地	平安
33	正権寺南遺跡	散布地	平安
34	正権寺前山遺跡	散布地	中世
35	金クソ山遺跡	製鉄	古代
36	金クソ山西遺跡	製鉄	古代
37	増山団子地窯跡	窯	奈良
38	増山赤坂窯跡	窯	平安
39	増山十村山遺跡	散布地・製鉄	縄文・古代
40	正権寺後島窯跡	窯	平安
41	正権寺後島遺跡	散布地・製鉄	平安
42	小丸山窯跡群	窯	平安
43	東笠鍾野窯跡群	窯	平安
44	増山外貝塚山遺跡	散布地	旧石器
45	増山外貝塚山窯跡	窯	奈良・平安
46	増山燒山窯跡	製鉄	古代
47	増山笠山窯跡	窯・製鉄	平安
48	増山外法蓮山窯跡	窯	平安

第1表 遺跡一覧



第1図 周辺の遺跡 (S=1/25000)

いたことが明らかになっている。増山城跡の西方、和田川を挟んで対峙する段丘には増山遺跡が存在しており、昭和52年の圃場整備事業に関連して発掘調査が行われ、縄文・古代の遺物をはじめ中世末から近世初頭の遺物・遺構が確認された。この調査結果とこれまでの文献資料調査により、増山城跡の城下町であることが確認されている。

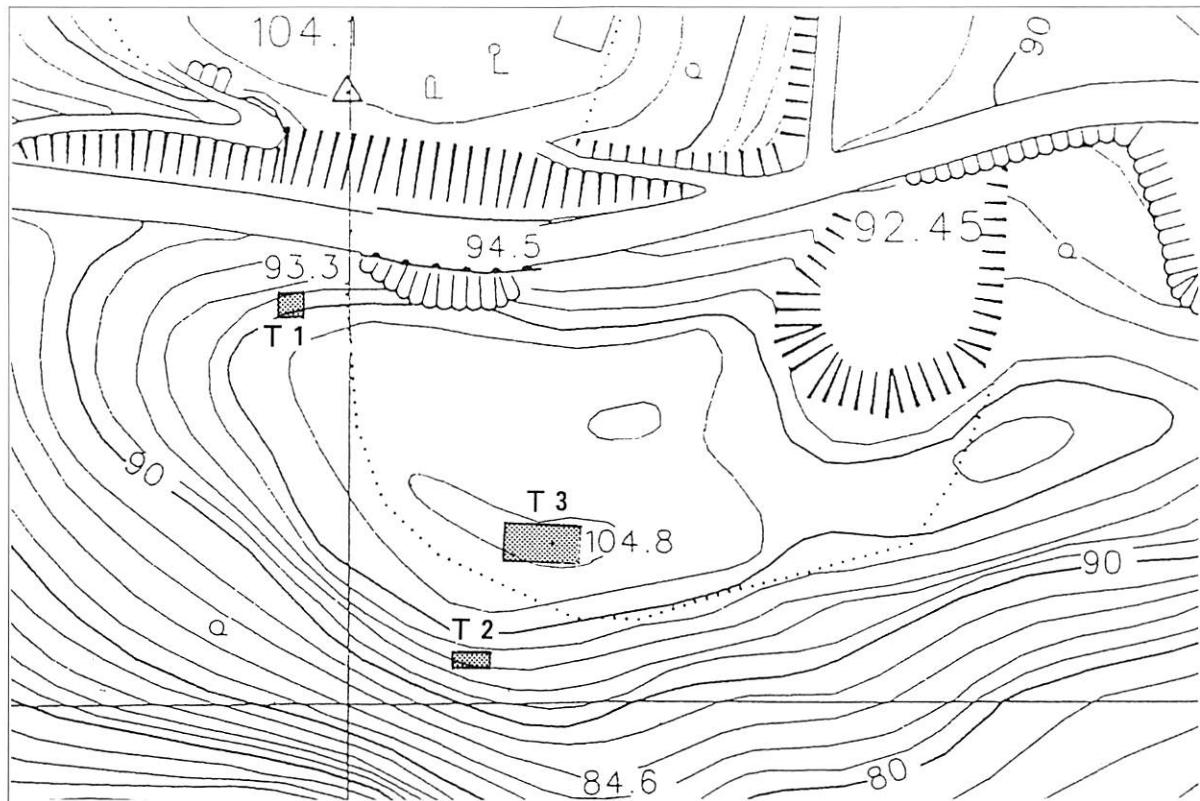
II 調査に至る経緯

当調査は、主要地方道坪野小矢部線（以下県道とする）道路改良事業に関連して事業を実施したものである。事業にあたり、埋蔵文化財包蔵地について富山県高岡土木事務所から照会を受け、協議を実施した結果、須蘇末峰遺跡、正権寺遺跡などが近隣に存在することから分布調査を実施することとした。平成10年5月6日に分布調査を実施したところ、遺物・遺構は確認されなかったが、調査区最高地において石の集中区が存在し、断面観察から黒色土が確認されている箇所があること、平坦面が存在することを確認した。

これをふまえた協議の結果、平成11年8月2日から平成11年8月10日にかけて、遺構の広がりを確認するために試掘調査を実施した。石の集中区周辺（T3）から土師器を4点検出し、石のほとんどに被熱を受けていることを確認した。また炭化物が堆積したピットを1箇所検出し、放射性炭素年代測定から8世紀後半のものとの結果が出された。T1・2では、遺構・遺物は確認されなかった。

発掘調査の結果から再度協議を行ったところ、石の集中区についてその広がりと他にピットの検出をねらうために発掘調査を実施することとなった。

調査にあたっては、まず繁茂する雑草を除去し、石の集中する範囲を明らかにした。その後、発掘区を設定し、調査を実施した。



第2図 トレンチ位置図

III 調査の概要

1. 概況

調査対象地は、県道により丘陵の張り出し部と切断された小丘陵となっており、最高部では標高約105mを測る。現地は既に土採り場として使用されていたことから、対象地の北域にあたる県道側はかなりの掘削を受けている。頂上付近においても例外ではないが、かろうじて集石周辺は残存している。南域は斜面となっていることから掘削は行われていないが、雑木林を切り払ったのちに雑草が生えている状況にある。

2. 基本層序

集石はかなりの風化を受けていることから、覆土は早い時期になくなっているようであるが明らかではない。また県道側では掘削・盛土を実施している箇所がある。これらのことから、
①黒褐色土（旧表土）、②暗茶褐色土（遺物包含層）、③褐色土（遺構検出面、地山）、④黄褐色土（地山）となる。

3. 遺構

(1)集石遺構(第4図)

調査区の最高地点周辺には集石が確認され、その分布状況から東西に二分できる。

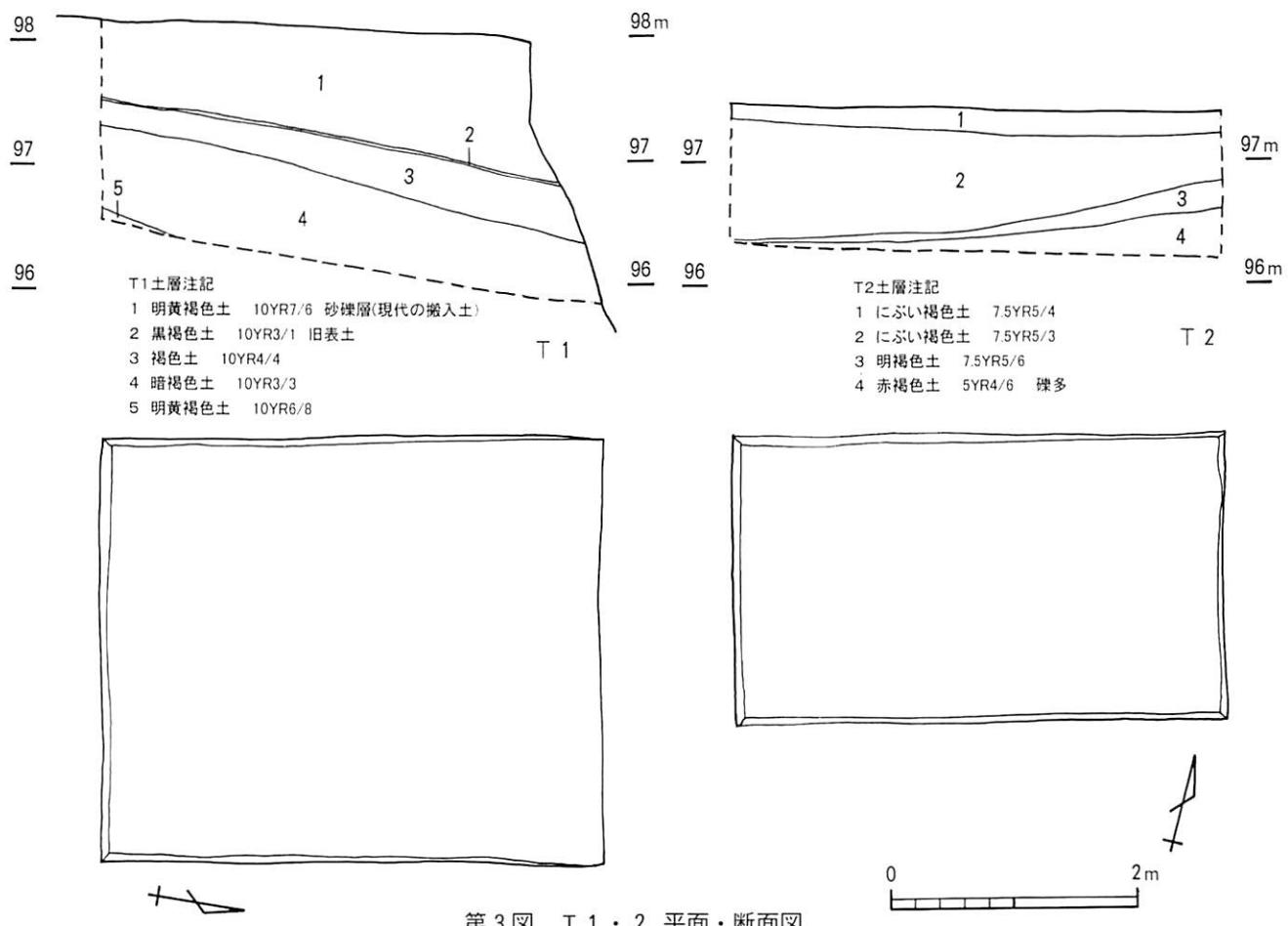
東部(T3-1)は集石状況が明確で、堅固ではないが石を積み重ねている状況もみてとれる。しかし北側の石を一部はずしてみたところ枯れ草が押し潰されていたことから、近年に石を移動させた部分も存在する。現況は1.5m×2mの長方形で、「コ」の字状を呈し、南西辺がない。主軸はS-36°-Wで、標高は約105mを測る。北が高く、南は約10cm下がり一段低くなる。石は石組み内部に向かって被熱しているものが多いが、集石内側において何かを燃やした痕跡は確認されない。

西部(T3-2・3)は集石がややまばらな感を受けるが、不定形な橈円に窪んだ地点を中心として集まりをみせる。窪みは長軸約3.5m×短軸約1.1mを測る。東が高く西が一段低くなり、約20cmの高低差がある。また、最深部は長軸約2.2m×短軸約1.1mの広さで長軸はN-69°-Wである。窪みの北東へ約2mの周辺では、褐色土を剥ぎ取ったところでも集石が確認された。また、炭化物層が約70cm×約60cmの範囲で面的に広がりをみせており、さらに西側へ広がることが推測される。炭化物層は厚さ約5cmで、底面に被熱の痕跡は確認されない。C14放射性炭素年代法より炭化物の年代を測定したところ、788±97年の結果が出ている。

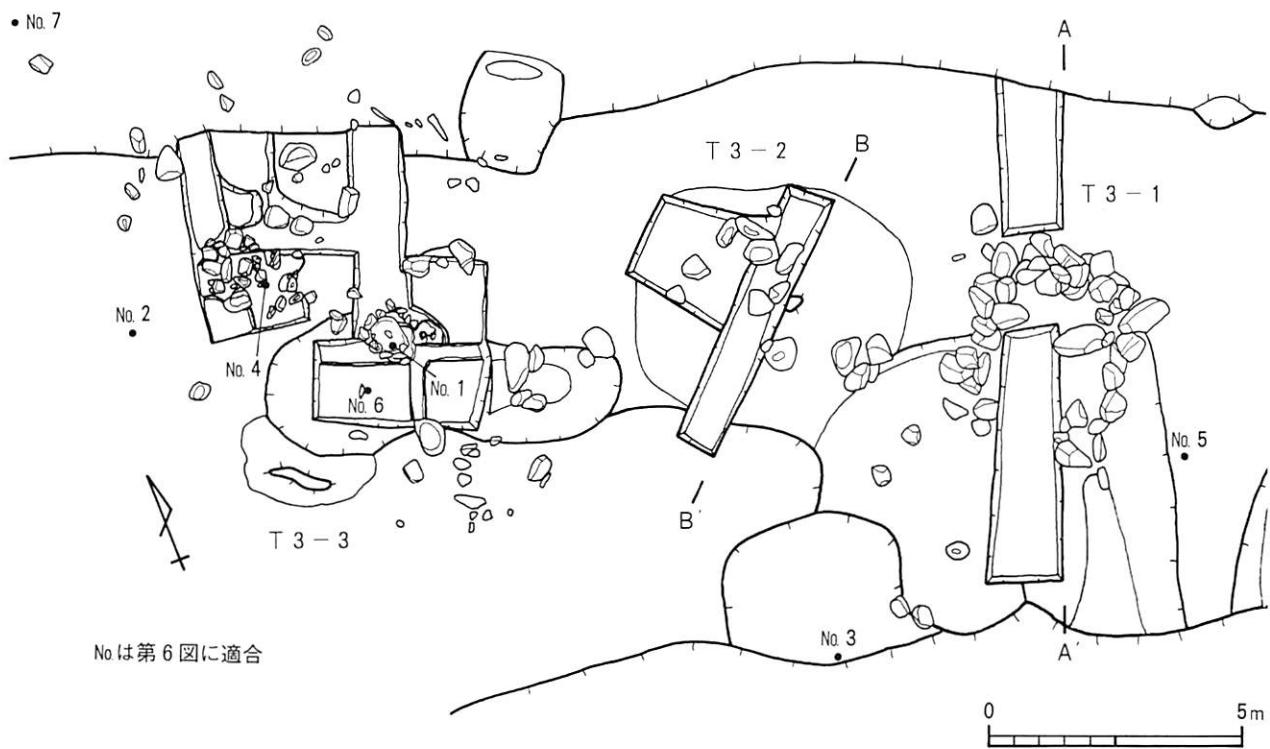
(2)ピット(第5図)

窪みの中心部からは、ピットP1が確認されている。ピットは長軸約70cm短軸約50cmの橈円形で深さは約35cmを測る。

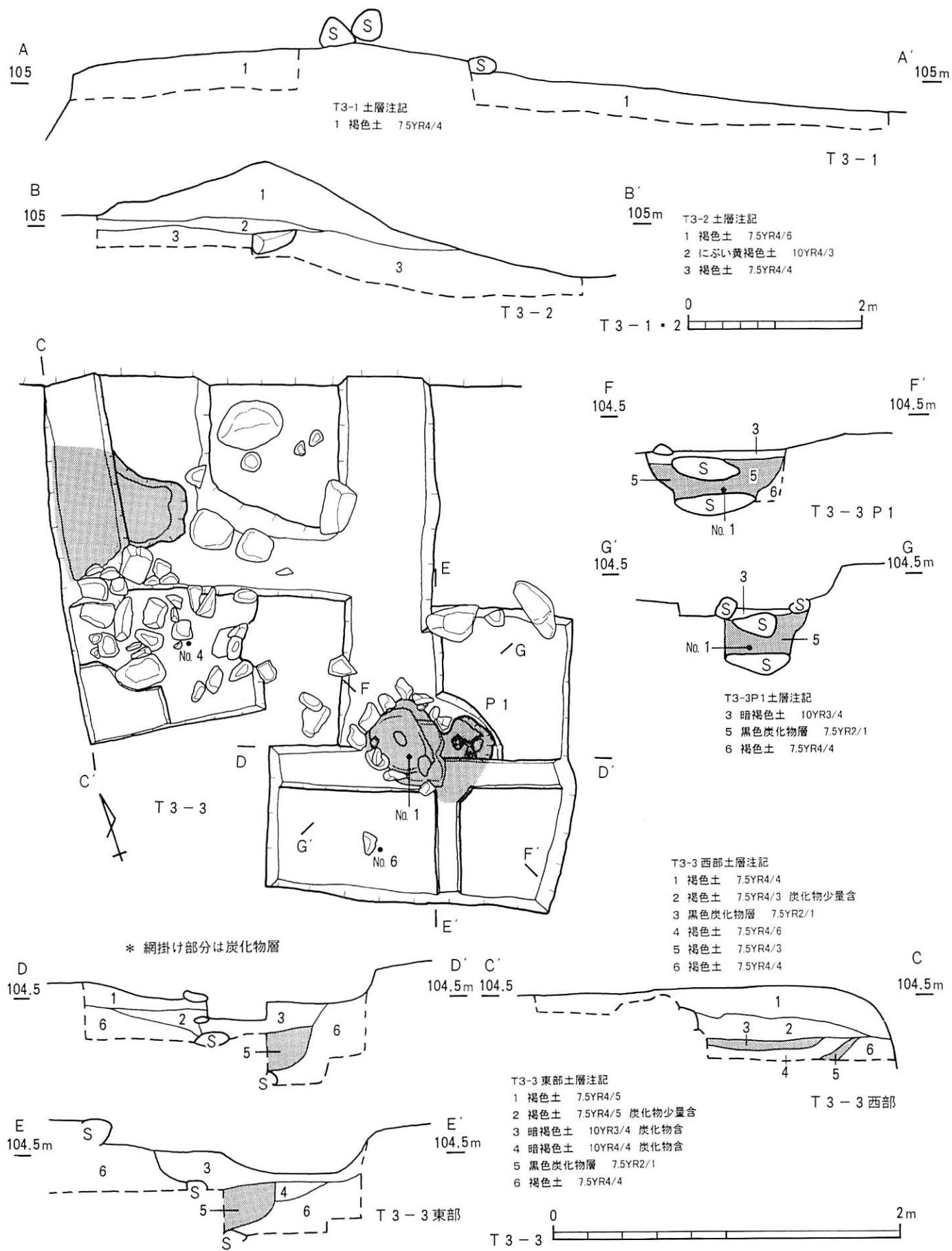
ピット内には、37cm四方の大きさの偏平な石が底部にあり、炭化物層を約10cm挟んでその上に40cm×28cmの偏平な石を置き、蓋をしたような状態が確認された。その上部の周囲には「コ」の字状に石組みが造られている。石組みは約50cm四方で、主軸はN-21°-Wである。炭化物層からはナイフ型石器が出土している。C14放射性炭素年代法より炭化物の年代を測定したところ、817±60年の結果が出ている。

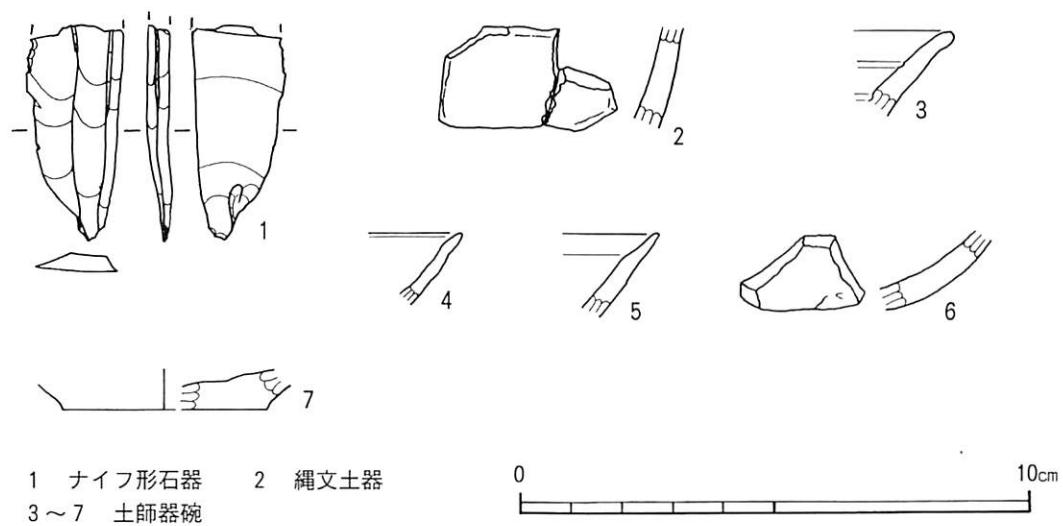


第3図 T1・2 平面・断面図



第4図 T3-1～3 位置図





第6図 出土遺物

4. 遺物(第6図)

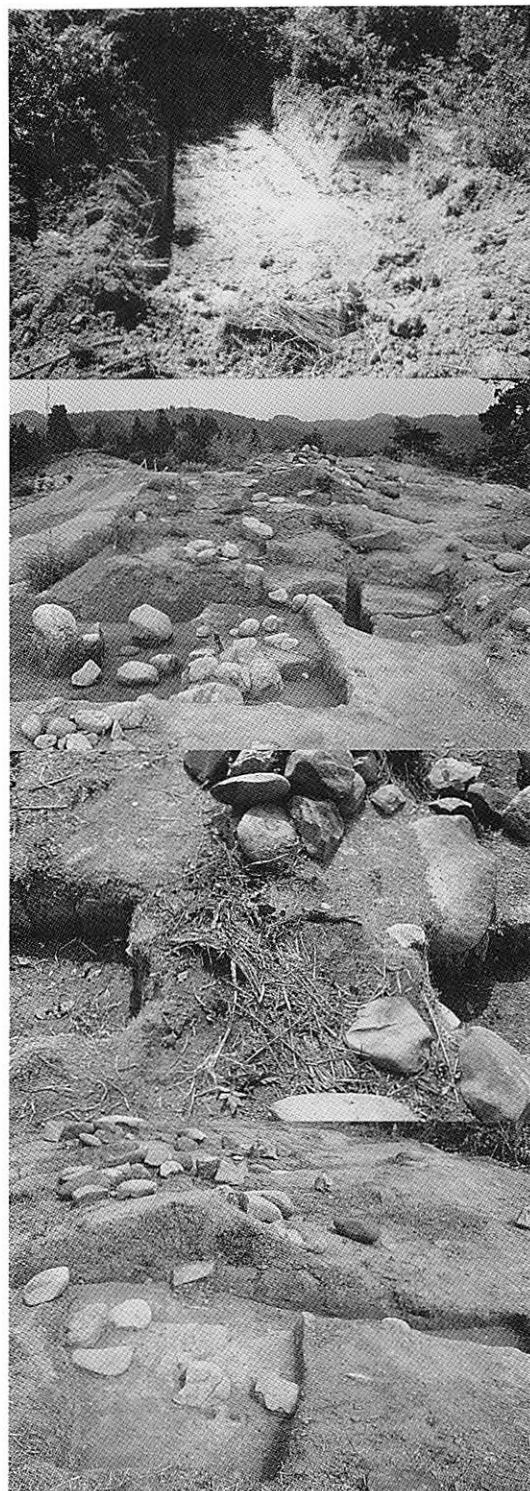
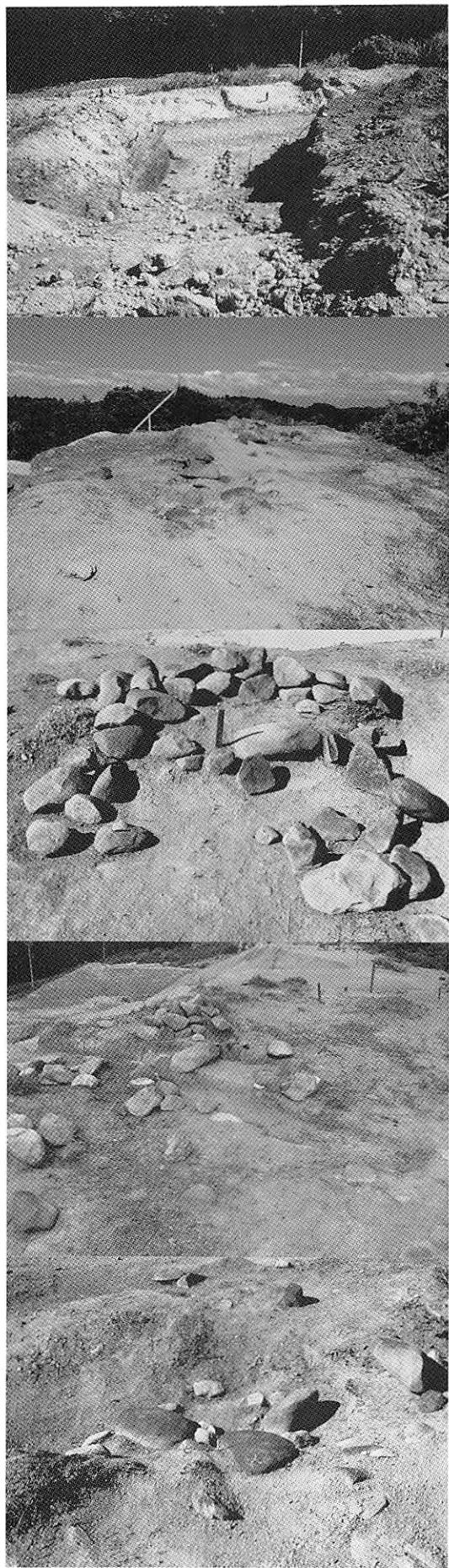
遺物ではナイフ型石器1点、土師器15点が出土している。土器は小片が多く、図示できるものは少ない。1はナイフ型石器。中央付近で折れており全容は明らかでないが、残存部分は最大長4.2cm、最大幅1.8cm、最大高0.4cmを測る。頁岩。2は縄文土器か。にぶい黄橙色。3～7は土師器碗か。3～5は口縁部で、3は口縁端部を外側へつまみ出し内部に2条の沈線がある。にぶい黄橙色。4はわずかに口縁が外傾し、内外面はナデが施される。にぶい橙色を呈する。5は口縁内部にナデによる面取りがされる。外面にもナデが施され、にぶい橙色である。6は底部付近。7は底部であり底には回転糸切痕が残る。内外面はにぶい黄橙色である。

IV まとめ

今回の調査では、集石遺構およびピットの全容を確認した。他の地点においてピットは確認されなかった。集石遺構は、S-36°-Wの傾きがあり南南西の方面を意識したような造りとなっている。石表面は焦げがあり被熱を受けているが、周囲の地面には被熱の痕跡は見受けられなかった。ピットは底部敷石から上部の石組みまでかなり複雑であり、意識的に作り出している。ピット内部には炭化物層があるがピット壁面は被熱を受けておらず、炭化物層内のナイフ型石器も焼かれた痕跡はない。このことから、炭化物層は搬入によるものと判断される。石器は炭化物層の詰め込みの時に意図をもって入れられたのであろう。炭化物の年代測定からは8世紀後半～9世紀前半の結果が出されている。しかし、集石および周辺では後世に上積みしたような石が確認されることから、現存の状況が当時の姿をとどめているとは考えられず、また、出土遺物も少ないとから、遺跡の性格を推測するのは難しい。ただし、当遺跡周辺には8世紀代から9世紀代の炭焼窯や須恵器窯が数多く存在することから、それらとの関連は推測できるだろう。

〈引用・参考文献〉

- 久々忠義 1988 「砺波市正権寺地内採集の土師器」『大境』第12号
関清 1990 「砺波市池原向島遺跡の調査とその成果」『砺波散村地域研究所研究紀要 第10号』
砺波市立砺波散村地域研究所
砺波市史編纂委員会編 1990 『砺波市史資料編 1 考古 古代・中世』
砺波市史編纂委員会編 1994 『砺波市史資料編 4 民俗・社寺』



写真図版 1

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 T 1 南側より | 6 T 3-1 石取外し状況 |
| 2 T 2 西側より | 7 T 3-1 南西側より |
| 3 T 3 調査前西側より | 8 T 3-2 西側より |
| 4 T 3 調査後西側より | 9 T 3-3 調査前南側より |
| 5 T 3-1 集石南側より | |

9



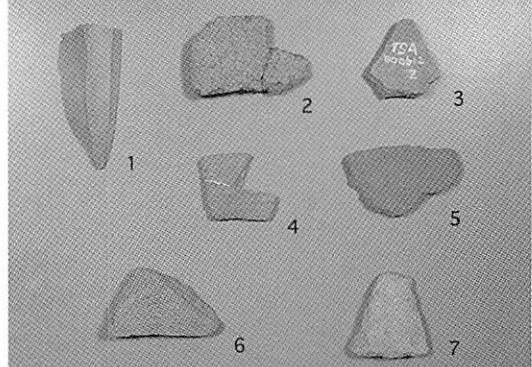
10



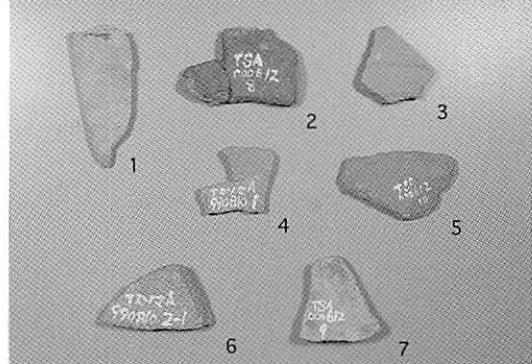
12



14



16



17



11



13



15



18

写真図版 2

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 10 T 3-3 P ①石組検出状況 | 15 T 3-3 西域炭化物層 |
| 11 T 3-3 P ②上石検出状況 | 16 出土遺物（表） |
| 12 T 3-3 P ③石器検出状況 | 17 出土遺物（裏） |
| 13 T 3-3 P ④下石検出状況 | 18 調査風景 |
| 14 T 3-3 P ⑤完掘状況 | |

報告書抄録

ふりがな	すそまとうげえいいせきちょうさがいほう							
書名	須蘇末峠A遺跡調査概報							
シリーズ名	-							
編集者名	利波匡裕							
編集機関	砺波市教育委員会							
所在地	〒939-1398 富山県砺波市栄町7-3 TEL(0763)33-1111							
発行機関	砺波市教育委員会							
所在地	〒939-1398 富山県砺波市栄町7-3 TEL(0763)33-1111							
発行年月日	西暦2001年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北緯 ° ′ ″	東經 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
すそまとうげえいいせき 須蘇末峠A遺跡	とやまけん となみし 富山県砺波市 いけのはら あざ かなやま 池原字北山22-1 ほか	208	104	36° 38' 26"	137° 02' 38"	990802～ 990810 000612～ 000621	発掘面積 69m ²	主要地方道 坪野小矢部線 道路改良事業
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
須蘇末峠A遺跡	散布地	古 代	配 石 ピット	ナイフ型石器 古代土師器				

平成13年3月

須蘇末峠A遺跡調査概報

編集 砧波市教育委員会
 発行 砧波市教育委員会
 富山県砺波市栄町7-3
 印刷 中越印刷(株)

